



学習状況に関する調査について

6 年生を対象に「全国学力・学習状況調査」について本校の結果及び今後の取り組み等についてお知らせいたします。なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の 1 つの側面です。

教科に関する調査結果について

国語・算数については全国平均並びに兵庫県平均を上回る結果となりました。教職員で検討した結果

国語について、「競技」が漢字で書けない児童が多く、一方「投げる」の解答率は高い結果でした。身近に使われている漢字は書け、使われていない漢字は書けないことから、普段からたくさんの言葉に触れる機会をつくるのが大切であるということがわかりました。また、文の中の主語と述語との関係を捉えることが苦手な児童が多く見られました。主語を明確にして読み取る経験をさせていくとともに、普段の生活の中でも、主語と述語を意識して話すことで、正しい内容理解につなげていきたいと思います。書く力について、「ふりかえり」の時間を大切にしていることから、書くことについて力がついていることもわかりました。国語の後半の無解答率が高く、時間が足りないという児童もいることから、読解スピードや、処理能力を高めるのが大切であると感じました。決められた時間内に問題を読んで自分の考えをまとめる経験が不足していることがわかりました。

算数については、算数が好きで算数の授業内容がよくわかっている児童が多いことに驚きました。算数の専科の先生や担任の先生、支援の先生方の手厚い指導のおかげです。授業では、まず、復習から前時の内容を確認した上で、本時の授業を始めます。「算数」は積み重ねの教科であることを意識させたいと考えています。話し合いの中で、「自分なりに考えた意見を出しやすいような授業づくりをしている」とのことでした。たとえ正答でなくてもどこで間違えてしまったのか気がつくことで次回から正答できるようになる児童が多く見られます。間違いが受け入れられ、誰もが活躍できる雰囲気が学力向上のもとになっていることがわかりました。内容では見取り図や展開図から正しく正答を出せない、半径や円周率などの使い分けが苦手など図形で苦労している児童が多く見られました。小さい時から重さや長さなど生活経験の中で操作しながら算数的な思考につなげていくことが改めて大切であると感じました。また 5 年前から始めている九九計算活動も計算の定着に有効であると改めて感じることができました。

【学習面】 ◎全国よりはるかに高い ○全国よりも高い
・全国と同等 ▼全国よりも低い

▼国語は好きですか。

・国語の授業内容はよくわかりますか。

◎算数は好きですか。

◎算数の授業内容はよくわかりますか。

○理科は好きですか。

・英語は好きですか。

国語はよくわかるが、好きではない。
算数はよくわかるし、大好きである。

研修会では、わかるだけでなく、「好きだ」と思える魅力ある授業に力を入れていこうという話になりました。

【生活面】 ◎全国よりもはるかに高い ○全国よりも高い ▼全国よりも低い

○朝食を食べていますか。	96.5% (93.7%)
◎1日にどれくらい学習のためにタブレットを活用していますか。	84.3% (74.1%) 30分以上
◎1日にどれくらいゲーム（携帯ゲームも含む）をしますか。	86.2% (74.3%) 1時間以上
◎自分には良いところがあると思いますか。	89.7% (84.1%)
○先生はあなたのよいところを認めているとおもいますか。	91.4% (89.9%)
▼将来の夢や目標を持っていますか。	72.4% (82.4%)
○人の役に立つ人間になりたいですか。	98.3% (95.9%)
○普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	96.5% (91.7%)
▼分からないことがあれば自分で学び方を考え工夫できていますか。	69.4% (80.7%)
◎5年生までの授業でICT機器をどれだけ活用しましたか。	89.7% (59.5%) 週3以上
▼地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	69.0% (83.5%)

毎日、朝食を食べている児童が多いことから授業に集中して取り組める環境が整っていると考えられます。タブレットを学習のために活用できていることは素晴らしいことではありますが、1日にゲームをしている時間も多岐にわたりました。携帯電話の使い方（LINEやSNS・動画）、ゲームの時間について、学校でも指導しますが、ご家庭でもご確認をお願いします。

児童に寄り添いよいところを見つけ褒めるよう意識してきた成果もあり、児童の自己肯定感が高く、普段の生活の中で「幸せ」を感じている児童が増えていることがわかりました。一方、分からないことがあったとき、教えてもらうのを「待つ」傾向にあり、自分で工夫し考えられるまでは至っていないこともわかりました。学校で丁寧に指導するだけでなく、自分たちで課題意識を持ち考える機会を大切にしていかなければならないと感じました。現在、学校運営協議会とも連携し、地域の「スクールサポーター」に授業支援していただいています。学校での支援が学力向上にもつながっています。まわりにたくさん応援団がいる地域や保護者の皆様に感謝する心を育て、自尊感情を高めながら、社会や地域貢献できるような人材を育成していかなければならないと改めて感じました。

先生から「自己肯定感」はついてきているが、自分の頑張りが学校や家族のためになっているという「自己有用感」が足りていないのではないかという意見が出ました。学校での教え合い活動、家庭でのお手伝いなどを通して「自己有用感」を高めていくことが大切と感じました。

学校運営協議会で出た意見（令和6年2024年9月6日開催）

- ・今の子どもたちはすぐに答えを求めてくる。（我が子も）タブレットで調べて表面上は知っているつもりになっていることがある。難しい問題に直面したときに学ぶプロセスを楽しんでほしい。
- ・算数「図形」は小さい時からの積み上げや生活経験がもともになるので、中学校でも「わからない」と苦勞する傾向にある。折り紙や積み木など小さい頃の遊びの中での生活体験が重要になってくる。
- ・「地域や社会をよくするために…」という質問は子どもたちの実態に合っていない気がする。子どもたちからあいさつをもらうだけで、地域は元気をもらっています。子どもたちに何かしてもらった時、それをまわりの大人がきちんと評価することで、自分が役に立っているという「自己有用感」が上がるのではないかと思います。（同様の質問項目について、中学校でも同意見でした。）
- ・どんなにAIが発達しても学校は先生と子どもとの「関係性」や「安心」が根本にある。児童の内面がわかれば児童に寄り添う指導ができると思うので、学校という場所を教職員、保護者や地域のみんなで支え、子どもに「いい環境」を作ることが大切だと感じました。